

## インタビュー

## 株式会社システム技研



写真1 事務棟及び工場の外観

## プロフィール

社名：株式会社システム技研

代表者：代表取締役 長峯清隆

設立：1985年2月

住所：〒885-0006 宮崎県都城市吉尾町1989番地1

従業員：48名

電話：0986-27-5300

URL：http://www.sys-gi.co.jp

- ・特許出願及び取得件数：10件
- ・医療機器製造業許可
- ・建設業機械器具設置工事業（宮崎県知事許可）

## Q1. 業務内容についてお聞かせ下さい。

貴学会には、弊社のような業種は異色に思えますが、この機会を頂き弊社のPRを兼ねて実情を少しお話させていただきます。

弊社は、1985年創立以来、精密部品の加工技術を基に一貫してものづくりにこだわってきました。1992年より、長年のものづくりの経験とノウハウをベースに産業用メカトロニクスを活用して、各分野でユースペックの製造設備や検査設備等の開発を展開して、これらの事業を営んでいます。

また、エレクトロニクス（半導体、液晶、電子部品等）やエネルギー分野を中心とし、自動車や医療分野など幅広い分野の顧客ニーズに対応しています。年々顧客の要求は難しくなっていますが、

**“新たな時代のニーズに、新しい技術で答える。”**

をモットーに今後も会社発展に繋げればと思います。

## Q2. 社名の由来をお聞かせください。

創業者である私が電気系の出身で、コンピューターのソフト開発を主業務とする株式会社マストを創立したのがスタートです。当時、電気と機械の仕事の役割は各々分断される風潮が強く、このことが仕事の効率と技術発展に悪影響するばかりでなく、両者の融合に大きな阻害をもたらしていました。

会社経営を続ける中で色々な経験を重ね、機械設計業務

を行うことも多くなり、いつしか機械と電気をシステムとして融合することにより付加価値の高い機械装置（今で言うメカトロニクス）が出来るのではと思い、かつ将来そのような技術研究を駆使した企業に育って欲しいということ願って1989年社名を株式会社システム技研に変更し、主業務を自動機・省力機部門に移行しました。

創業当時、システムという言葉は、そもそもソフトウェア用語で扱われることが多く、機械にはなじみが薄かったのですが、やっと電気と機械を融合することができました。

## Q3. ロゴマークの由来をお聞かせください。

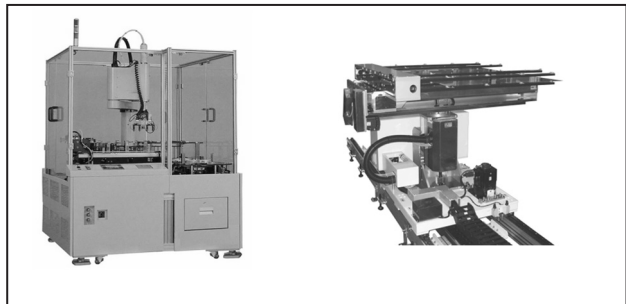
企業テーマ「P&P」は、物をつかみ、置く＝ピックアンドプレース（Pick and Place）をベースとして生まれました。



図1 弊社のロゴマーク

頭文字「P」をモチーフにP（Personal＝個性）&P（Public＝大衆）と意味付け、企業ロゴマークはP（People＝人）&P（Perfect＝完全）とし、より高次元の人間性・製品造りを目

指す企業「S（システム技研）」をロゴマークの中心に表現しています。つまり、弊社は、より高い次元の人間性と多様性を持った社会に、より付加価値の高いものづくりの仕組み（SYSTEM）を持った企業を目指して行きます。



a)液晶表示パネル検査装置 b)大型 FPD 液晶基板搬送ロボット

写真2 弊社開発の機器の例

#### Q4. 現在危惧していることや今後の展望についてお聞かせ下さい。

現在、弊社は下請け体質であり、企業としての付加価値を見い出せないのが現状であり危惧している所です。今の体質では、景気、業界や客先の環境状況に左右されてしまう。ましてや、今、世界の様々な環境が大きく変化し、少子化に伴う人材不足によって事業の先行きの厳しさは増々募るばかりです。

幸いにして今迄の事業継続の中、経験の積み重ねによって、ものづくりの“ノウハウ”を多く獲得してきました。

1990年代、リチウムイオン二次電池に関しましては創成期より携わってきました。電池の出荷前の充放電検査に伴う仕分け設備はエンジニアリング会社の基、当初携帯電話のバッテリーから始まり、車載用や固定蓄電池システム用等、様々な容量やサイズなど多数の実績を重ねてきました。

一方、半導体分野では、既存技術の一つであるマスク成膜技術をメカトロ技術ともものづくり技術を融合させて精度向上を図りました。大手自動車メーカーとの共同開発によって、一部工程をフォトリソからメタルマスク工程に変更することで車載用パワーデバイスの実用化に貢献しました。

また、2020年、第8回ものづくり日本大賞経済産業局長賞を受賞、他にも国や地方自治体などから数々の認定を受けております。

これらの技術とノウハウを活用して、今後、下請け体質の脱却を図り社員にゆとりを、お客様には夢をかなえる企

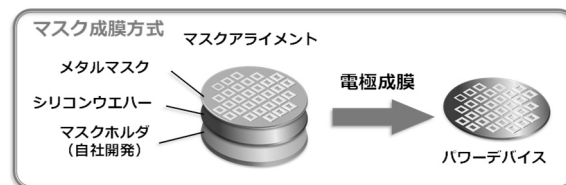


図2 当社開発のメタルマスクの例

業に育て上げたい。

幼少からの夢であった、航空宇宙産業参入にトライしたい。また、知財の活用によって新製品開発にも力を注いで行きたい。



写真3 長峯清隆代表取締役

#### Q5. 学会に期待することについてお聞かせ下さい。

今日まで貴学会への関わり合いはありませんでした。また、中小企業は学会とは殆ど縁のないものだと思っていました。

地球環境の問題は人類にとって今や最大のテーマとなっています。一刻の猶予も無くこの問題の解決に向けて取り組まなければなりません。地球環境にやさしい材料の開発がこの問題を解決できる根本的テーマであると思います。高い機能を持った新しい素材の開発に向けた学会の早急な取り組みをお願いします。

お忙しい中インタビューに応じて頂きました。期して感謝の意を表します。

(日本材料科学会 編集委員 永井達夫)